				シラ	ノヾ	ス			
科目	名	テーピング I		担	当	者名	高橋 聖		
学 科	4	スポーツビジネススポーツトレーナ・		技	受業ス	方法	実習		
認定單		1単位	開講期				授業時間数	36時間	
開講生	学年	1学年	必・選	選択					
授業目	目的	テーピングの専	門的知識を身に付	けけた人材	オにな	さ ること。			
授業 トラーニ アウトカ	ング		本を学び、実施す 用的なテーピンク					現場を仮定とし、条	
授業棚	既要	グについて講義	と実技を合わせな	ながら行う。	。また	各部位のテ		後各部位のテーピン 節構造・怪我発生機 する。	
			授業内容			授業内容			
	1	オリエンテーション グループ編成			19	応用テーピンク	「について(講義)(1)		
	2	オリエンテーション グループ編成			20	応用テーピンク	でについて(講義)(2)		
	3 運動器の解剖と機能について(1)				21	今までのまとめ	復習(1)		
	4	運動器の解剖と機能	について(2)		22	今までのまとめ	までのまとめ復習(2)		
	5	テーピングについて(])		23	テーピングの基	本(実技)(1)		
	6	テーピングについて(2	2)		24	テーピングの基本(実技)(2)			
	7	テーピングの基本(講	義)(1)		25	テービングについて(実技)(1) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む			
授	8	テーピングの基本(講	義)(2)		26	テーピングについて(実技)(2) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む			
業計	9	足関節テーピングにて	ついて(講義)(1)		27		いて(実技)(3) か、技術取得者から次の記	果題へ進む	
画表	10	足関節テーピングに~	ついて(講義)(2)		28		いて(実技)(4) り、技術取得者から次の記	果題へ進む	
	11	膝関節テーピングにつ	ついて(講義)(1)		29	テーピングについて(実技)(5) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む			
	12	膝関節テーピングにつ	ついて(講義)(2)		30	テーピングについて(実技)(6) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む			
	13	肩関節テーピングにつ	ついて(講義)(1)		31	筆記試験			
	14	肩関節テーピングにて	ついて(講義)(2)		32	テーピング復習	·練習(1)		
	15	肘関節テーピングにつ	ついて(講義)(1)		33	テーピング復習	·練習(2)		
	16	肘関節テーピングにつ	ついて(講義)(2)		34	実技試験(1)			
	17	手関節テーピングにつ	ついて(講義)(1)		35	実技試験(2)			
	18	手関節テーピングにイ	ついて(講義)(2)		36	まとめ			
		テスト		30%	学	習FB方法	前期・後期 成績表	· · · · · · ·	
成績割	割合	学習態度•出席:	率	60%	1	L. D. J. D.			
		レポート		10%	F	 战績評価	S90~100点 A80~ B70~79点 C60~	69点	
		合計		100%			D59点以下(不合格	;)	
		P≪課題解決型学習》					型学習≫40% G≪海タ		
講師プ		バレー・プロソフトボ	ホーツ協会公認アス ール・プロ格闘家・テ やストレッチ・治療のサ	ニス・ゴルフ	フ・卓ヌ	求・バレエ・フィ	ーノ・児տや登官院など ギュアスケートなど幅 <i>広</i>	で、サッカー・野球・空手・ い競技で、テーピングを	

			シラ	バ	ス			
科目	名	スイミング指導 I	担	. 当 :	者名	加藤 健志		
学 科	4	スポーツビジネス科 スポーツトレーナーコース	ł	受業ス	方法	実習		
認定単		2単位 開講期)33 [F			授業時間数	72時間	
開講学	字牛	1学年 必・選	選択					
授業目	目的	水泳種目に於いて、健康維持増	進として適	動切な	指導ができ	る知識を得る		
授業 F (ラーニ アウトカ.	ング	豊富な知識を得て、積極的に活動手から心身の健康増進できる優秀					できる競技スポーツ選	
授業棚	既要	①プールサイドでのドライランドト②知識・理論に関しては、グルー					実践を行う。	
		授業内容			授業内容			
	1	オリエンテーション1		19	技術トレーニン	グのねらい		
	2	オリエンテーション2		20	技術トレーニングのねらい			
	3 オリエンテーション3			21	技術トレーニングのねらい			
	4	トレーニング理論			技術トレーニングの課題			
	5	トレーニング理論		23	技術トレーニングの課題			
	6	トレーニング理論		24	技術トレーニン	グの課題		
	7	水泳の体力トレーニング法		25	技術トレーニン	グの課題		
授	8	水泳の体力トレーニング法		26	技術トレーニン	グの実践		
業計工	9	水泳の体力トレーニング法			技術トレーニン	グの実践		
画 表	10	水泳の体力トレーニング法		28	技術トレーニングの実践			
	11	水泳の体力トレーニング法		29	技術トレーニングの実践			
	12	水泳のメンタルトレーニング		30	水泳競技基礎・ルール			
	13	水泳のメンタルトレーニング		31	水泳競技基礎・ルール			
	14	水泳のメンタルトレーニング		32	後期実技試験	対策		
	15	水泳のメンタルトレーニング		33	後期実技試験	険 100m個人メドレー		
	16	テスト 対策		34	確認テスト・まと	め1		
	17	泳力テスト		35	確認テスト・まと	<i>b</i> 2		
	18	テストの振り返り		36	確認テスト・まと			
		テスト	30	兴	習FB方法	前期・後期 成績表	学社	
成績害	訓合	学習態度・出席率	30	子	日口力伝			
沙人/貝百	13 🗖	レポート	40	F		出席率80%以上 ~89 B70~79	S90~100点 A80 点 C60~69点 D5	
		合計	100%)-		9点以下は不合格	₩ COO OO₩ DO	
P/R/A/G割合 P≪課題解決型学習≫20% R≪実働実践型学習≫40			0%	A≪主体的参加	型学習≫20% G≪海	身外体感型学習≫20%		
講師コ		JOC競泳オリンピック強化コーチ/日本オる。	<泳連盟 競	意泳強/	化コーチ 日本	の水泳界を牽引されて	ている講師が担当してい	

			シラ	バ	ス			
科目	名	救急処置法 I	担	当	者名	石井 英一		
学科		スポーツビジネス科 スポーツトレーナーコース	ł	受業ス	方法	実習		
認定單	単位	1単位 開講期				授業時間数	36時間	
開講学	学年	1学年 必・選	選択			汉 术 門 阳 频	OUNT [H]	
授業目	目的	質の高い心肺蘇生とAEDの習得 切れることのない社会を目指しま	を目指し、 さす。	傷病	者の「社会行	复帰」をキーワード	に「救命の連鎖」が途	
授業目 (ラーニ アウトカ.	ング	 日本ライフセービング協会の「BI	LS資格」取	得を	目指します。			
授業棚	既要	心肺蘇生法はじめとする応急手ていく。	当に対する	近し	い理解、各種	種応急手当の実施	要領について実施し	
		授業内容			授業内容			
	1	ガイダンス		19	心停止の分類と心室細動という不整脈(2)			
	2 救命の連鎖(1)				心停止の分類と心室細動という不整脈(3)			
	3	救命の連鎖(2)			心室細動の治療	療とAEDの必要性(1)		
	4	日本の実状(1)		22	心室細動の治療	療とAEDの必要性(2)		
	5	日本の実状(2)			心室細動の治療	療とAEDの必要性(3)		
	6	呼吸・循環のしくみ(1)			心肺蘇生の実力			
	7	呼吸・循環のしくみ(2)		25	心肺蘇生の実力			
授	8	呼吸・循環のしくみ(3)		26	心肺蘇生の実施手順(3)			
業計	9	血液の成分と役割(1)		27	気道異物挿入	徐去(1)		
画表	10	血液の成分と役割(2)		28	気道異物挿入除去(2)			
	11	血液の成分と役割(3)		29	気道異物挿入除去(3)			
	12	心肺蘇生の理論(1)		30	溺水事故での心肺蘇生(1)			
	13	心肺蘇生の理論(2)		31	溺水事故での心肺蘇生(2)			
	14	心肺蘇生の理論(3)		32	溺水事故での	心肺蘇生(3)		
	15	胸骨圧迫の重要性(1)		33	実技テスト			
	16	胸骨圧迫の重要性(2)		34	学科テスト			
	17	胸骨圧迫の重要性(3)		35	振り返り			
	18	心停止の分類と心室細動という不整脈(1)		36	まとめ			
		テスト	30%	学	習FB方法	前期・後期 成績表	の送付	
成績害	訓合	学習態度・出席率	50%	子	日口刀伍	四岁 飞火州 八八八八	.v>.\Δ '\	
乃入小貝百	13 🗖	レポート	20%	F		出席率80%以上 S:A:80~89点 B:70~		
		合計	100%)-	AUSCH I IM	C:60~69点 D:59点		
P/R/A/G割合 P《課題解決型学習》20 R《実働実践型学習》40 A《主体的参加型学習》30 G《海外体感型学習》10					型学習≫10			
講師コフィー		公益財団法人 日本ライフセービング協 日本赤十字社 指導員	会指導員					

			シラ	バ	ス			
科目名	_ <u></u> 名	機能解剖学	担	当	者名	町田 秀樹		
学科	+	スポーツビジネス科 スポーツトレーナーコース	ž	受業プ	方法	講義		
認定単		2単位 開講期				授業時間数	36時間	
開講学	学年	1学年 必・選	選択					
授業目	目的	運動の指導者として必要な知識を	と得る。					
授業目 (ラーニ アウトカ.	ング	骨や筋肉の名称を覚えるとともに、 礎を築く。また、自分で正しく学び	、関節の動 続けるこ	動きや とがて	筋肉の特徴 きる基礎を	敢を知ることで、運動 築く。	かや健康の指導の基	
授業棚	既要	解剖学の基礎						
		授業内容				授業内容	:	
	1	機能解剖学の導入		19	脳・神経系の導	I入		
	2	骨・関節の種類と動き		20	神経組織			
3 骨格の名称①/頭蓋骨 21 神経筋接合部 4 骨の名称②/脊柱 22 シナプスと神経伝達物質								
	4	骨の名称②/脊柱			シナプスと神経伝達物質			
	5	骨の名称③/腕・脚・手・足など		23	交感神経と副交感神経			
	6	筋肉について導入		24	脳神経系			
	7	筋組織・筋肉の形状と特徴		25	大脳·間脳			
授	8	骨格筋の微細構造			脳幹·小脳·脊	髄		
業計一	9	骨格筋の名称①/前面			髄膜			
画表	10	骨格筋の名称②/前面・後面			上行伝導路			
	11	骨格筋の名称③/後面		29	下行伝導路			
	12	骨格筋の名称④/肩のローテーターカフ		30	脊髄反射			
	13	小さな骨・骨格筋の名称		31	脊髄神経系支	配領域について		
	14	骨格筋·起始停止		32	伸張性反射に	ついて		
	15	骨格筋の収縮と関節の動き		33	復習			
	16	復習		34	復習・まとめ			
	17	復習・まとめ		35	確認テスト			
	18	確認テスト		36	前期・後期の総	合まとめ		
		テスト	70%	学	習FB方法	前期•後期 成績表		
成績害		学習態度·出席率	30%	子	日口刀伍	四次 区为 以限衣	VI ي	
79人//具首	11 [レポート		F	戈績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~8	—— 39点 B70~79占 C	
合計 100% Jump 100% 390 100点 A80 89点 B70 60 60 60点 D59点以下は不合格								
P/R/A/G割合 P《課題解決型学習》20 R《実働実践型学習》70 A《主体的参加型学習》10 G《海外体感型学習》0					型学習≫0			
講師フィー		2002年より整体業の店を開業していますなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が翔					ます。 著書に「できる人は	

			シラ	バ	ス		
科目名	_ <u></u> 占	テーピング I	担	当	者名	高橋 聖	
学 科	ŀ	スポーツビジネス科 スポーツインストラクターコース	İ	受業ス	方法	実習	
認定単開講学		1単位 開講期 1学年 必・選	選択			授業時間数	36時間
授業目	目的	テーピングの専門的知識を身	に付けた人材	オにな	さること。		
授業目 (ラーニ: アウトカノ	ング	テーピングの基本を学び、実施 件に合わせて応用的なテーピ					現場を仮定とし、条
授業概	悪要	初めに身体構造及び関節につ グについて講義と実技を合わ 序・損傷部位・状態の評価方法	せながら行う。	また	各部位のテ	ーピングでは、関節	節構造•怪我発生機
		授業内容			授業内容		
	1	オリエンテーション グループ編成		19	応用テーピンク	について(講義)(1)	
	2	オリエンテーション グループ編成		20	応用テーピンク	について(講義)(2)	
3 運動器の解剖と機能について(1)				21	今までのまとめ	復習(1)	
	4	運動器の解剖と機能について(2)			今までのまとめ復習(2)		
	5	テーピングについて(1)		23	テーピングの基	本(実技)(1)	
	6	テーピングについて(2)		24	テーピングの基	本(実技)(2)	
	7	テーピングの基本(講義)(1)			テーピングにつ 足関節から始め		果題へ進む
授	8	テーピングの基本(講義)(2)		26	テーピングにつ 足関節から始め	いて(実技)(2) り、技術取得者から次の記	果題へ進む
業計	9	足関節テーピングについて(講義)(1)		27	テーピングにつ 足関節から始め	いて(実技)(3) 5、技術取得者から次の記	果題へ進む
画表	10	足関節テーピングについて(講義)(2)		28	テーピングにつ 足関節から始め	いて(実技)(4) ら、技術取得者から次の詞	果題へ進む
	11	膝関節テーピングについて(講義)(1)		29	テーピングにつ 足関節から始め	いて(実技)(5) 5、技術取得者から次の記	果題へ進む
	12	膝関節テーピングについて(講義)(2)		30	テーピングについて(実技)(6) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	13	肩関節テーピングについて(講義)(1)		31			
	14	肩関節テーピングについて(講義)(2)		32	テーピング復習	·練習(1)	
	15	肘関節テーピングについて(講義)(1)		33	テーピング復習	·練習(2)	
	16	肘関節テーピングについて(講義)(2)		34	実技試験(1)		
	17	手関節テーピングについて(講義)(1)		35	実技試験(2)		
	18	手関節テーピングについて(講義)(2)		36	まとめ		
		テスト	30%	学	習FB方法	前期・後期 成績表	: 注付
		学習態度・出席率	60%	7			.en
成績害	引合	レポート	10%			S90~100点 A80~89点	
		合計 100%		成績評価		B70~79点 C60~69点 D59点以下(不合格	5)
P/R/A/C	3割合	P《課題解決型学習》40% R《実働:	実践型学習≫20	% A	《主体的参加型		
講師フィー		柔道整復師・日本スポーツ協会公認 手・バレー・プロソフトボール・プロ格 グを始め、トレーニングやストレッチ・	闘家・テニス・コ	ゴルフ	・卓球・バレエ・		

			シラ	バ	ス			
科目名	名	スイミング指導 I	担	. 当 =	者 名	加藤 健志		
学 科	+	スポーツビジネス科 スポーツインストラクターコース	ł	受業ス	方法	実習		
認定単		2単位 開講期) 77 (m)			授業時間数	72時間	
開講学	字年	1学年 必・選	選択					
授業目	目的	水泳種目に於いて、健康維持増	進として適	動切な	指導ができ	る知識を得る		
授業目 (ラーニ アウトカ	ング	豊富な知識を得て、積極的に活動 手から心身の健康増進できる優秀					できる競技スポーツ選	
授業棚	既要	①プールサイドでのドライランドトロックのでは、グルー		ブ(動きづくり)を行ってから、入水し実践を行う。 を含んだ座学を行う。				
		授業内容			授業内容			
	1	オリエンテーション1		19	技術トレーニン	グのねらい		
	2	オリエンテーション2		20	技術トレーニングのねらい			
	3 オリエンテーション3			21	技術トレーニン	グのねらい		
	4	トレーニング理論			技術トレーニングの課題			
	5	トレーニング理論		23	技術トレーニングの課題			
	6	トレーニング理論			技術トレーニン	グの課題		
	7	水泳の体力トレーニング法		25	技術トレーニン	グの課題		
授	8	水泳の体力トレーニング法		26	技術トレーニン	グの実践		
業計工	9	水泳の体力トレーニング法			技術トレーニン	グの実践		
画 表	10	水泳の体力トレーニング法		28	技術トレーニングの実践			
	11	水泳の体力トレーニング法		29	技術トレーニングの実践			
	12	水泳のメンタルトレーニング		30	水泳競技基礎・ルール			
	13	水泳のメンタルトレーニング		31	水泳競技基礎・ルール			
	14	水泳のメンタルトレーニング		32	後期実技試験	対策		
	15	水泳のメンタルトレーニング		33	後期実技試験	険 100m個人メドレー		
	16	テスト 対策		34	確認テスト・まと	め1		
	17	泳カテスト		35	確認テスト・まと	<i>b</i> 2		
	18	テストの振り返り		36	確認テスト・まと	<i></i>		
		テスト	30	学	習FB方法	前期・後期 成績表	学社	
成績害		学習態度•出席率	30	子	日口力伝			
沙人/貝百	11 [レポート	40	F		出席率80%以上 ~89 B70~79	S90~100点 A80 点 C60~69点 D5	
		合計	100%),		9点以下は不合格	₩ COO OO₩ DO	
P/R/A/G割合 P《課題解決型学習》20% R《実働実践型学習》40%			0%	A≪主体的参加	型学習≫20% G≪海	好外体感型学習≫20%		
講師コ		JOC競泳オリンピック強化コーチ/日本かる。	<泳連盟 競	意泳強(化コーチ 日本	の水泳界を牽引されて	ている講師が担当してい	

			シラ	バ	ス			
科目	名	機能解剖学	担	1.当 ==	者名	町田 秀樹		
学 科	+	スポーツビジネス科 スポーツインストラクターコース	1	受業ス	方法	講義		
認定単		2単位 開講期				授業時間数	36時間	
開講学	学年	1学年 必・選	選択					
授業目	目的	運動の指導者として必要な知	1識を得る。					
授業 E (ラーニ アウトカ.	ング	骨や筋肉の名称を覚えるとと 礎を築く。また、自分で正しく	もに、関節の動 学び続けるこ	動きや とがて	P筋肉の特徴できる基礎を	数を知ることで、運動 築く。	かや健康の指導の基	
授業棚	既要	解剖学の基礎						
		授業内容		授業内容				
	1	機能解剖学の導入		19	脳・神経系の導	注入		
	2	骨・関節の種類と動き		20	神経組織			
	3	骨格の名称①/頭蓋骨		21	神経筋接合部			
	4	骨の名称②/脊柱		22	シナプスと神経	伝達物質		
	5	骨の名称③/腕・脚・手・足など	称③/腕・脚・手・足など			芝感神経 かんしゅう		
	6	筋肉について導入		24	脳神経系	脳神経系		
	7	筋組織・筋肉の形状と特徴		25	大脳・間脳			
授	8	骨格筋の微細構造		26	脳幹・小脳・脊	髄		
業計	9	骨格筋の名称①/前面		27	髄膜			
画表	10	骨格筋の名称②/前面・後面		28	上行伝導路			
	11	骨格筋の名称③/後面		29	下行伝導路			
	12	骨格筋の名称④/肩のローテーターカン	7	30	脊髄反射			
	13	小さな骨・骨格筋の名称		31	脊髄神経系支配領域について			
	14	骨格筋·起始停止		32	伸張性反射に	ついて		
	15	骨格筋の収縮と関節の動き		33	復習			
	16	復習		34	復習・まとめ			
	17	復習・まとめ		35	確認テスト			
	18	確認テスト		36	前期・後期の総	合まとめ		
		テスト	70%	学	習FB方法	前期・後期 成績表		
成績害	削合	学習態度·出席率	30%	,				
/-/\/\!\\\ \	7.4	レポート		Fi	 找績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~8	39点 B70~79点 C	
		合計	100%		2422 H I III	60 [~] 69点 D59点以		
P/R/A/C割合 P≪課題解決型学習≫20 R≪実働実践型学習≫70 A≪主体的参加型学習≫10 G≪海外体感型学習≫0				型学習≫0				
講師フィー		2002年より整体業の店を開業してV なぜ、そこまで姿勢にこだわるのか。					ます。著書に「できる人は	

科目	名	救急処置法 I		担	当	者名	石井 英一		
学 科	¥	スポーツビジネス スポーツインストラ		ŧ	授業方法 実習				
認定単	単位	1単位	開講期				授業時間数	36時間	
開講学	学年	1学年	必・選	選択			及未門間級	00.1141	
授業目	目的		手生とAEDの習得 い社会を目指しま		傷病	渚の「社会	復帰」をキーワード	に「救命の連鎖」が途	
授業 l (ラーニ アウトカ.	ング	日本ライフセート	ごング協会の「BL	S資格」取	得を	目指します。			
授業棚	既要	心肺蘇生法はじていく。	めとする応急手旨	当に対する	近し	い理解、各	種応急手当の実施	要領について実施し	
			授業内容			授業内容			
	1	ガイダンス			19	心停止の分類。	と心室細動という不整脈(2)	
	2	救命の連鎖(1)			20	心停止の分類	と心室細動という不整脈の	3)	
	3 救命の連鎖(2)				21	心室細動の治療とAEDの必要性(1)			
	4 日本の実状(1)				22	心室細動の治	療とAEDの必要性(2)		
	5 日本の実状(2)				23	心室細動の治療とAEDの必要性(3)			
	6	呼吸・循環のしくみ(1))		24	心肺蘇生の実	施手順(1)		
	7	呼吸・循環のしくみ(2)			25	心肺蘇生の実	施手順(2)		
授	8	呼吸・循環のしくみ(3))		26	心肺蘇生の実施手順(3)			
業計	9	血液の成分と役割(1)			27	気道異物挿入	除去(1)		
画 表	10	血液の成分と役割(2)			28	気道異物挿入	除去(2)		
	11	血液の成分と役割(3)			29	気道異物挿入	除去(3)		
	12	心肺蘇生の理論(1)			30	0 溺水事故での心肺蘇生(1)			
	13	心肺蘇生の理論(2)			31	溺水事故での心肺蘇生(2)			
	14	心肺蘇生の理論(3)			32	溺水事故での心肺蘇生(3)			
	15	胸骨圧迫の重要性(1)		33	実技テスト			
	16	胸骨圧迫の重要性(2)		34	学科テスト			
	17	胸骨圧迫の重要性(3)		35	振り返り			
	18	心停止の分類と心室	細動という不整脈(1)		36	まとめ			
		テスト		30%	学	習FB方法	前期・後期 成績表	の送付	
		学習態度・出席	率 —————	50%			III de de cara de la compansión de la co		
成績害	割合	レポート 20% 合計 100%			- S:90~100点 A:80~89点 成績評価 R:70~70点			格	
P/R/A/G割合 P《課題解決型学習》20 R《実働実践型学習》40 A《主体的参加型学習》30 G《海外体感型学習》10					型学習≫10				
講師プ		公益財団法人 日本 日本赤十字社 指導	×ライフセービング協。 算員	会指導員					

			シラ	ノヾ	<u>ス</u>		
科目名	名	スイミング指導 Ι	担	. 当 =	者名	加藤 健志	
学 科	+	スポーツビジネス科 スポーツマネジメントコース	į	受業ス	方法	実習	
認定単	单位	2単位 開講期				授業時間数	79時間
開講学	学年	1学年 必・選	選択			以 未 的 的 妖	1 7 H / J F]
授業目	目的	水泳種目に於いて、健康維持	f増進として適	切な	指導ができ	る知識を得る	
授業目 (ラーニ アウトカ.	ング	豊富な知識を得て、積極的に 手から心身の健康増進できる					できる競技スポーツ選
授業棚	既要	①プールサイドでのドライラン ②知識・理論に関しては、グハ					実践を行う。
		授業内容				授業内容	\$
	1	オリエンテーション1		19	技術トレーニングのねらい		
	2	オリエンテーション2	テーション2			グのねらい	
	3	オリエンテーション3		21	技術トレーニングのねらい		
	4	トレーニング理論		22	技術トレーニン	グの課題	
	5	トレーニング理論		23	技術トレーニン	グの課題	
	6	トレーニング理論		24	技術トレーニン	グの課題	
	7	水泳の体力トレーニング法		25	技術トレーニン	グの課題	
授	8	水泳の体力トレーニング法		26	技術トレーニン	グの実践	
業計	9	水泳の体力トレーニング法		27	技術トレーニン	グの実践	
画表	10	水泳の体力トレーニング法		28	技術トレーニン	グの実践	
	11	水泳の体力トレーニング法		29	技術トレーニン	グの実践	
	12	水泳のメンタルトレーニング		30	水泳競技基礎・ルール		
	13	水泳のメンタルトレーニング		31	水泳競技基礎・ルール		
	14	水泳のメンタルトレーニング		32	後期実技試験	対策	
	15	水泳のメンタルトレーニング		33	後期実技試験	剣 100m個人メドレー	
	16	テスト 対策		34	確認テスト・まと	め1	
	17	泳力テスト		35	確認テスト・まと	:b)2	
	18	テストの振り返り		36	確認テスト・まと	:b3	
		テスト	30	ىدر	羽ED 七分	益期。 ※ 期 中傳士	::\ \ .
成績害		学習態度·出席率	30	子	習FB方法	前期・後期 成績表	还的
<i>州</i> 太// (具 百	13 🗖	レポート	40	F	戈績評価		S90~100点 A80 点 C60~69点 D5
		合計	100%			9点以下は不合格	
P/R/A/(講師: フィー	プロ	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □					

				シラ	ノヾ	ス			
科目	名	機能解剖学		担	当	者名	町田 秀樹		
学 科	4	スポーツビジネス科 スポーツマネジメントコ	ース	拉	受業プ	方法	講義		
認定單		. ,—	開講期	733 LH			授業時間数	36時間	
開講学	产牛	1学年	必・選	選択					
授業目	目的	運動の指導者として	必要な知識を	と得る。					
授業目 (ラーニ アウトカ.	ング	骨や筋肉の名称を覚 礎を築く。また、自分	えるとともに で正しく学ひ	、関節の動 続けること	動きや とがて	筋肉の特徴 きる基礎を	敢を知ることで、運動 築く。	めや健康の指導の基	
授業概	既要	解剖学の基礎							
		授業	内容			授業内容			
	1	機能解剖学の導入			19	脳・神経系の導	入		
	2	骨・関節の種類と動き			20	神経組織			
	3	骨格の名称①/頭蓋骨			21	神経筋接合部			
	4	骨の名称②/脊柱			22	シナプスと神経	伝達物質		
	5	骨の名称③/腕・脚・手・足が	ほど		23	交感神経と副ろ	交感神経と副交感神経		
	6	筋肉について導入	24 脳神経系						
	7	筋組織・筋肉の形状と特徴			25	大脳・間脳			
授	8	骨格筋の微細構造			26	脳幹·小脳·脊	趙		
業計	9	骨格筋の名称①/前面			27	髄膜			
画表	10	骨格筋の名称②/前面・後面	ĐÍ		28	上行伝導路			
	11	骨格筋の名称③/後面			29	下行伝導路			
	12	骨格筋の名称④/肩のロー	テーターカフ		30	脊髄反射			
	13	小さな骨・骨格筋の名称			31	脊髄神経系支配領域について			
	14	骨格筋·起始停止			32	伸張性反射に	ついて		
	15	骨格筋の収縮と関節の動き			33	復習			
	16	復習			34	復習・まとめ			
	17	復習・まとめ			35	確認テスト			
	18	確認テスト			36	前期・後期の総	合まとめ		
		テスト		70%	学	習FB方法	前期・後期 成績表	· · · · · ·	
成績害	訓合	学習態度•出席率		30%	-1.	HI DATA			
/4人//貝百	13 []	レポート			F	戈績評価		90 [~] 100点 A80 [~] 89点 点 D59点以下は不合	
		合計		100%),		格	·W Doow的上的小日	
P/R/A/G割合 P≪課題解決型学習≫20 R≪実働実践型学習≫70 A≪主体的参加型学習≫10 G≪海外体感型学習≫0			型学習≫0						
講師コフィー		7 P《課題解決型学者》20 R《美뼰美銭型学者》70 2002年より整体業の店を開業しています。ほとんどなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が翔泳社から2						ます。著書に「できる人は	

		1		シフ	<u> </u>	<u> </u>		
科目名	名	マッサージ・スト	レッチング I	担	上当	者名	町田 秀樹	
学 科	+	スポーツビジネス スポーツマネジメ		ł	受業ス	方法	実習	
認定單		1単位 1学年	開 講 期 必・選	選択			授業時間数	36時間
授業目	目的	安全を第一に考	うえたストレッチング で、体のより深い理	ゲや運動! 解につな	指導を げる。	ができるようり 。	こする。また、マッサ	ナージを通して体の構
授業 E (ラーニ アウトカ.	ング							理解する。また、マッ・スポーツの指導にも
授業棚	既要	実際にマッサー	・ジなどを実施する	ことで、本	マスク アン・スティング マイ・スティング しょうしょ しょうしょ アン・スティン アン・スティン アン・スティン アン・スティン アン・スティング アン・スティン アン・スティング アン・スティング アン・スティング アン・スティング アン・スティング アン・スティング	体の動きや	特性の理解を深め)る。
			授業内容				授業内容	<u> </u>
	1	ストレッチング導入			19	バイオメカニクン	ス導入	
	2	ストレッチングの種類	・ 意味について		20	てこの原理 第	一種テコから第三種テコ	
3 ストレッチングの基本的知識/筋紡錘と腱紡錘における 運動ニューロンと感覚ニューロンについて① 2					21	てこの原理 関節と運動の説明。		
	4	ストレッチングの基本 運動ニューロンと感覚	 的知識/筋紡錘と腱紡釒 ミニューロンについて②	垂における	22	解剖学的テコ	トルクなど	
	5	ストレッチの基本的知識/ストレッチングの基本的知識/ 筋紡錘と腱紡錘における運動ニューロンと感覚ニューロ ンについて③			23	解剖学的テコ 作用の角度		
	6		¢/セルフストレッチの説り 〕説明。	明。拮抗筋	24	運動の法則と身	身体の動き	
	7	ストレッチの基本的知識/パートナーストレッチについて ここではPNFについて。			25	筋と骨・多関節	運動と単関節運動	
授	8	ストレッチの基本的知識/ストレッチの効果			26	筋の弾性要素	と弾性エネルギー	
業計	9	ストレッチの基礎知識	載/全般を簡単にふりかえ	とり	27	着地衝撃とその)緩和法	
画 表	10	関節の可動域と動きの	の名称の確認		28	パワーの発揮とエネルギーの伝達		
	11	筋肉の起始・停止を減	意識したストレッチについ	17	29	運動と流体力		
	12	拮抗筋を利用したスト 胸筋・広背筋を例に	トレッチ。動きの制限の必	必要性。大	30	基本的動きの分析 座る・歩く・走る		
	13	ケガ予防とストレッチン	ングとマッサージ		31	スポーツの体の動きを考える		
	14	確実な関節の動かし	方をしる		32	安全な体の使い	ハ方を考える	
	15	ストレッチングは解剖 する	学的事実が基本である	ことを確認	33	復習		
	16	復習			34	復習		
	17	復習・まとめ			35	確認テスト		
	18	確認テスト			36	前期・後期の総	合まとめ	
		テスト		60%	NA.	AND - W	共生 谷生 下午十	: `
FP %== H	7d 🛆	学習態度・出席	率	40%	字	習FB方法	前期•後期 成績表	达打
成績害	刊合	レポート				₽^#\$#/ *		90~100点 A80~89点
		合計		100%	J.	战績評価	B70 [~] 79点 C60 [~] 69 D59点以下は不合 ²	
P/R/A/0	G割合	P≪課題解決型学習	≫20% R≪実働実践	型学習≫50	% A	A≪主体的参加	L 型学習≫30% G≪海织	
			の店を開業しています かにこだわるのか」が翔					ます。著書に「できる人は
74 77 Secretary 377 10 / HARLEY SECTOR OF CONTEMPORATION OF SECRETARIAN SECTION OF SECRETARIAN SECTION OF SECRETARIAN SECTION OF SEC								

				シラ	ノヾ	ス			
科目名	名	テーピング I		担	当	者名	高橋 聖		
学 承	+	スポーツビジネス: スポーツインストラ		技	受業ス	方法	実習		
認定単		1単位	開講期				授業時間数	36時間	
開講学	学年	1学年	必・選	選択					
授業目	目的	テーピングの専	門的知識を身に付	付けた人材	オにな	さること。			
授業 E (ラーニ アウトカ	ング		本を学び、実施す 用的なテーピンク					現場を仮定とし、条	
授業棚	既要	グについて講義	と実技を合わせな	ながら行う。	また	各部位のテ		後各部位のテーピン 節構造・怪我発生機 する。	
			授業内容			授業内容			
	1	オリエンテーション グループ編成			19	応用テーピンク	「について(講義)(1)		
	2	オリエンテーション グループ編成			20	応用テーピンク	でについて(講義)(2)		
	3 運動器の解剖と機能について(1)				21	今までのまとめ	復習(1)		
	4	運動器の解剖と機能	こついて(2)		22	今までのまとめ	復習(2)		
	5	テーピングについて(])		23	テーピングの基	本(実技)(1)		
	6	テーピングについて(2	?)	24		テーピングの基本(実技)(2)			
	7	テーピングの基本(講	義)(1)		25	テーピングについて(実技)(1) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む			
授	8	テーピングの基本(講	義)(2)		26		いて(実技)(2) り、技術取得者から次の詞	果題へ進む	
業計	9	足関節テーピングにて	ついて(講義)(1)		27	テーピングについて(実技)(3) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む			
画表	10	足関節テーピングに	ついて(講義)(2)		28		いて(実技)(4) り、技術取得者から次の記	果題へ進む	
	11	膝関節テーピングにつ	ついて(講義)(1)		29	テーピングについて(実技)(5) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む			
	12	膝関節テーピングにつ	ついて(講義)(2)		30	テーピングについて(実技)(6) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む			
	13	肩関節テーピングにイ	ついて(講義)(1)		31	筆記試験			
	14	肩関節テーピングにつ	ついて(講義)(2)		32	テーピング復習	₹•練習(1)		
	15	肘関節テーピングにつ	ついて(講義)(1)		33	テーピング復習	₹•練習(2)		
	16	肘関節テーピングにつ	ついて(講義)(2)		34	実技試験(1)			
	17	手関節テーピングにつ	ついて(講義)(1)		35	実技試験(2)			
	18	手関節テーピングにつ	ついて(講義)(2)		36	まとめ			
		テスト		30%	学	習FB方法	前期・後期 成績表		
成績害	削合	学習態度•出席	率	60%	,				
		レポート		10%	万		S90~100点 A80~ B70~79点 C60~	69点	
- 6		合計		100%	-/		D59点以下(不合格		
P/R/A/(講師: フィー	プロ	バレー・プロソフトボ	 :ポーツ協会公認アス	レティックト ニス・ゴルン	レーナ フ・卓兵	ーーとしてスポー ホ・バレエ・フィ	型学習》40% G《海ケーツ現場や整骨院など ギュアスケートなど幅広	外体感型学習≫0% で、サッカー・野球・空手・ にい競技で、テーピングを	

	シラバス									
科目名機能解剖学		担	担当者名		町田 秀樹					
学 科		スポーツビジネス科 サッカーエキスパートコース			受業ス	方法	講義			
認定單		2単位 開講期					授業時間数	36時間		
開講生	学年	1学年 必・選 選択								
授業目	目的	運動の指導者として必要な知識を得る。								
授業 F (ラーニ アウトカ	ング	骨や筋肉の名称を覚えるとともに、関節の動きや筋肉の特徴を知ることで、運動や健康の指導の基礎を築く。また、自分で正しく学び続けることができる基礎を築く。								
授業棚	既要	解剖学の基礎								
		授業内容					授業内容	:		
	1	1 機能解剖学の導入				脳・神経系の導入				
	2 骨・関節の種類と動き			20	神経組織					
	3	骨格の名称①/頭蓋骨			21	神経筋接合部				
	4	骨の名称②/脊柱			22	シナプスと神経伝達物質				
	5	骨の名称③/腕・脚・手・足など			23	交感神経と副交感神経				
	6	筋肉について導入			24	脳神経系				
	7	筋組織・筋肉の形状と特徴			25	大脳·間脳				
授	8	骨格筋の微細構造			26	脳幹・小脳・脊	趙			
業計	9	骨格筋の名称①/前面				髄膜				
画表	10	骨格筋の名称②/前面・後面				上行伝導路				
	11	骨格筋の名称③/後面				下行伝導路				
	12	骨格筋の名称④/肩のローテーターカフ				脊髓反射				
	13	小さな骨・骨格筋の名称			31	脊髄神経系支配領域について				
	14	骨格筋·起始停止			32	伸張性反射について				
	15	骨格筋の収縮と関節の動			33	復習				
	16	復習			34	復習・まとめ				
	17	復習・まとめ			35	確認テスト				
	18	確認テスト			36	前期・後期の総	合まとめ			
		テスト		70%	沅	羽にロ十分	益期. 公 期 - 法 建士	2.关件		
成績害	訓合	学習態度·出席率		30%	子	習FB方法	前期・後期 成績表送付			
以则	13 🗖	レポート			F	₩ 持評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~8	 9点 B70 [~] 79点 C		
		合計		100%	成績評価 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C 60~69点 D59点以下は不合格					
P/R/A/0	G割合	P≪課題解決型学習≫2	0 R≪実働実践型	世学習≫70	A≪∄	体的参加型学	習≫10 G≪海外体感	型学習≫0		
講師プ		2002年より整体業の店を開業しています。ほとんどなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が翔泳社から2						ミす。著書に「できる人は		

シラバス									
科目名		救急処置法 I		担	当	者名	石井 英一		
学科	+	スポーツビジネス科 サッカーエキスパートコース		授業方法		方法	実習		
認定單開講等		1単位 開講期 1学年 必・選 選択			授業時間数 36時間			36時間	
授業目	目的	質の高い心肺蘇生とAEDの習得を目指し、傷病者の「社会復帰」をキーワードに「救命の連鎖」が途切れることのない社会を目指します。							
授業 E (ラーニ アウトカ	ング	日本ライフセービング協会の「BLS資格」取得を目指します。							
授業棚	既要	心肺蘇生法はじめとする応急手当に対する正しい理解、各種応急手当の実施要領について実施していく。							
			授業内容		授業内容				
	1	ガイダンス			19	心停止の分類と心室細動という不整脈(2)			
	2	救命の連鎖(1)			20	心停止の分類と	こ心室細動という不整脈(3	3)	
	3	救命の連鎖(2)			21	心室細動の治療とAEDの必要性(1)			
	4	日本の実状(1)			22	心室細動の治療とAEDの必要性(2)			
	5	日本の実状(2)			23	心室細動の治療とAEDの必要性(3)			
	6	呼吸・循環のしくみ(1)			24	心肺蘇生の実施手順(1)			
	7	呼吸・循環のしくみ(2)			25	心肺蘇生の実施手順(2)			
授	8	呼吸・循環のしくみ(3)			26	心肺蘇生の実施手順(3)			
業計	9	血液の成分と役割(1)			27	気道異物挿入	余去(1)		
画表	10	血液の成分と役割(2)			28	気道異物挿入	余去(2)		
	11	血液の成分と役割(3)			29	気道異物挿入	余去(3)		
	12	心肺蘇生の理論(1)			30	溺水事故での	ン肺蘇生(1)		
	13	心肺蘇生の理論(2)			31	溺水事故での	ン肺蘇生(2)		
	14	心肺蘇生の理論(3)		32	溺水事故での	溺水事故での心肺蘇生(3)			
	15	胸骨圧迫の重要性(1)			33	実技テスト			
	16	胸骨圧迫の重要性(2)			34	学科テスト			
	17	胸骨圧迫の重要性(3))		35	振り返り			
	18	心停止の分類と心室	細動という不整脈(1)		36	まとめ			
		テスト		30%	عدر		治田、公田・子体士	an'XH	
		学習態度・出席	率	50%	子	習FB方法	前期•後期 成績表	の	
成績害	削合	レポート		20%			出席率80%以上 S:90~100点		
		合計 100%			成績評価		A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格		
P/R/A/0	G割合	P≪課題解決型学習	≫20 R≪実働実践型	学習≫40	A≪主	体的参加型学習	習≫30 G≪海外体感型		
講師プ		公益財団法人 日本 日本赤十字社 指導	sライフセービング協: 算員	会指導員					

			シラ	ノヾ	ス				
科目名		スイミング指導 I 担			者名	名 加藤 健志			
学 科		スポーツビジネス科 サッカーエキスパートコース			方法 実習				
認定単位		2単位 開講期				授業時間数	79時間		
開講学	华年	1学年 必・選 選択				以 未 时 间 奴	【 乙 中寸 [日]		
授業目	目的	水泳種目に於いて、健康維持	る知識を得る						
授業 E (ラーニ アウトカ	ング	豊富な知識を得て、積極的に活動できる優秀な指導者を養成し、世界で活躍できる競技スポーツ活動がいます。手から心身の健康増進できる優秀な指導者の育成を目的として行う。							
授業棚	既要	①プールサイドでのドライラン ②知識・理論に関しては、グ/		ブ(動きづくり)を行ってから、入水し実践を行う。 を含んだ座学を行う。					
		授業内容				授業内容	3		
	1	オリエンテーション1		19	技術トレーニングのねらい				
	2	オリエンテーション2			技術トレーニングのねらい				
	3	オリエンテーション3			技術トレーニングのねらい				
	4	トレーニング理論	22	技術トレーニングの課題					
	5	トレーニング理論			技術トレーニングの課題				
	6	トレーニング理論			技術トレーニングの課題				
	7	水泳の体力トレーニング法			技術トレーニン	グの課題			
授	8	水泳の体力トレーニング法			技術トレーニン	グの実践			
業計	9	水泳の体力トレーニング法	27	技術トレーニン	グの実践				
画 表	10	水泳の体力トレーニング法	28	技術トレーニン	グの実践				
	11	水泳の体力トレーニング法	29	技術トレーニン	グの実践				
	12	水泳のメンタルトレーニング			水泳競技基礎・ルール				
	13	水泳のメンタルトレーニング			水泳競技基礎・ルール				
	14	水泳のメンタルトレーニング			後期実技試験 対策				
	15	水泳のメンタルトレーニング		33	後期実技試験 100m個人メドレー				
	16	テスト 対策		34	確認テスト・まとめ1				
	17	泳力テスト		35	確認テスト・まと	め2			
	18	テストの振り返り		36	確認テスト・まと				
		テスト	30	محدر	XX CD ±×+	益期. 後期 · 予使士	::\ \ .		
成績害		学習態度•出席率	30	子	習FB方法	前期・後期 成績表	达到		
以入利其古	иП	レポート	40				S90~100点 A80 点 C60~69点 D5		
		合計	100%						
P/R/A/C 講師フ	プロ	P《課題解決型学習》20% R《実働実践型学習》40% A《主体的参加型学習》20% G《海外体感型学習》20% JOC競泳オリンピック強化コーチ/日本水泳連盟 競泳強化コーチ 日本の水泳界を牽引されている講師が担当している。							

	シラバス								
科目名 テーピング I		担当者名		高橋 聖					
学 科		スポーツビジネス科 サッカーエキスパートコース		授業方法		実習			
認定單		1単位 開講期					授業時間数	36時間	
開講学	学年	1学年 必・選 選択							
授業目	目的	テーピングの専	門的知識を身に付	けけた人材	オにな	さること。			
授業 l (ラーニ アウトカ.	ング	テーピングの基本を学び、実施することが可能になること、また実際にスポーツ現場を仮定とし、条件に合わせて応用的なテーピングが実施することが可能になる。							
授業棚	既要					ピングの基本を講義にて学ぶ。その後各部位のテーピン。また各部位のテーピングでは、関節構造・怪我発生機び応用的テーピングの流れで実施する。			
		授業内容				授業内容			
	1	オリエンテーション グループ編成			19	応用テーピングについて(講義)(1)			
	2	オリエンテーション グループ編成			20	応用テーピンク	「について(講義)(2)		
	3	運動器の解剖と機能について(1)			21	今までのまとめ復習(1)			
	4	運動器の解剖と機能について(2)			22	今までのまとめ復習(2)			
	5	テーピングについて(I)			23	テーピングの基本(実技)(1)			
	6	テーピングについて(2)			24	テーピングの基	本(実技)(2)		
	7	テーピングの基本(講義)(1)			25		いて(実技)(1) り、技術取得者から次の詞	果題へ進む	
授	8	テーピングの基本(講義)(2)			26		いて(実技)(2) う、技術取得者から次の記	果題へ進む	
業計	9	足関節テーピングについて(講義)(1)			27		いて(実技)(3) り、技術取得者から次の詞	果題へ進む	
画 表	10	足関節テーピングについて(講義)(2)			28		いて(実技)(4) り、技術取得者から次の記	果題へ進む	
	11	膝関節テーピングについて(講義)(1)			29	テーピングにつ 足関節から始め	いて(実技)(5) り、技術取得者から次の詞	果題へ進む	
	12	膝関節テーピングについて(講義)(2)			30		いて(実技)(6) り、技術取得者から次の詞	果題へ進む	
	13	肩関節テーピングについて(講義)(1)			31	筆記試験			
	14	肩関節テービングについて(講義)(2)			32	テーピング復習・練習(1)			
	15	肘関節テービングについて(講義)(I)			33	テーピング復習・練習(2)			
	16	肘関節テーピングに	ついて(講義)(2)		34	実技試験(1)			
	17	手関節テーピングに	ついて(講義)(1)		35	実技試験(2)			
	18	手関節テーピングに	ついて(講義)(2)		36	まとめ			
		テスト		30%	学	習FB方法	前期•後期 成績表		
成績害	削合	学習態度•出席	率	60%					
		レポート		10%	成績評価		S90~100点 A80~89点 B70~79点 C60~69点		
		合計		100%			D59点以下(不合格)		
P/R/A/0	G割合	P≪課題解決型学習					型学習≫40% G≪海织		
講師プ		柔道整復師・日本スポーツ協会公認アスレティックト バレー・プロソフトボール・プロ格闘家・テニス・ゴルフ 始め、トレーニングやストレッチ・治療のサポートをし				ጰ・バレエ・フィ	ーツ現場や整骨院など ギュアスケートなど幅広	で、サッカー・野球・空手・ い競技で、テーピングを	

		I								
科目名	科目名 コンピュータ実習 I		担	担当者名		棋村 麻里子				
学 科	ŀ	スポーツビジネス科大学コース		打	授業方法		講義			
認定単	单位	4単位	開講期				授業時間数	72時間		
開講学年 1学年 必・選 選		選択			12 /K " 1 1 1 9 9 9	- End led				
授業目	目的						こ付け、積極的な沿			
授業目 (ラーニ) アウトカム	ング	パソコンの基礎知識、インターネットでの情報検索方法、Microsoft Office基本操作を学び、適切な情報活用ができるようになる。 ビジネスで必須のキータッチの習得、ビジネス文書・企画書・請求書などの書類作成スキルを目標とする。								
パソコン実習を通じて、キーボード操作を身に付い Word:基本的なビジネス文書の形式を覚え、現場 Excel:簡単な表作成、数式、関数を学び、注文書 PowerPoint:他科目の発表で活用できるプレゼン							現場で必要とされる実践的なファイルを作成する。 文書・請求書などの基本書類を作成する。			
		授業内容				授業内容				
	1	教室環境の確認 ガイダンス			19	基礎関数、表示形式(2)				
	2 Windowsの基本操作					基礎関数、表示	基礎関数、表示形式(3)			
	3	今後のスケジュール確認			21	グラフの作成(1)				
	4	文字の入力、アプリケーションの知識				グラフの作成(2)				
	5	Wordの概要、文章の入力と編集			23	グラフの作成(3)				
	6	ビジネス文書の作成・編集(1)			24	グラフの作成(4)				
	7	ビジネス文書の作成・編集(2)拡張書式			25	データベースの基礎(1)				
授	8	表の作成(1)			26	データベースの基礎(2)				
業計	9	表の作成(2)				総合問題				
画表	10	図形、グラフィックの活用(1)				確認テスト				
	11	図形、グラフィックの活用(2)				スライドの作成、編集				
	12	地図作成			30	PowerPointの概要、スライドの作成				
	13	ポスター作成			31	スライドの作成				
	14	前期テスト			32	スライドの作成、編集				
	15	テスト返却 まとめ			33	スライドの作成、編集				
	16	Excelの概要、四則演	算 ————————————————————————————————————		34	アニメーション、画面切り替え				
	17	四則演算、絶対参照			35	スライドショーの実行				
	18	基礎関数、表示形式	(1)		36	まとめ				
		テスト		40%	学	習FB方法	課題提出による評価	五のフィードバック		
成績害		学習態度・出席	率	30%	子	日口刀伍		цv/ノイ TY / У/У		
以順音	1 🗆	レポート		課題提出:30%	E	₹ お 排 神 神 に に に に に に に に に に に に に	出席率80%以上 S:90~100点 A:80	~89 B·70~79占		
		合計		100%			S:90~100点、A:80~89、B:70~79点、 C:60~69点、D:59点以下は不合格			
P/R/A/C	3割合	P≪課題解決型学習	≫50% R≪実働実践	型学習≫30	% A	≪主体的参加型	型学習≫20% G≪海外	体感型学習≫0%		
講師フ							パソコン実習、情報系の られるような授業を展開	の資格講座を中心として 引する。		

シラバス										
科目名		スイミング指導 I		担	担当者名		加藤 健志			
学 科		スポーツビジネス科大学コース			受業ス	方法	実習			
認定単位		2単位 開講期					授業時間数	72時間		
開講学	学年	1学年 必・選 選択					以 未 的 的 数	1.74.0 [B]		
授業目	目的	水泳種目に於い	って、健康維持増減	進として適	切な	指導ができ	る知識を得る			
授業 E (ラーニ アウトカ.	ング	豊富な知識を得て、積極的に活動できる優秀な指導者を養成し、世界で活躍できる競技スポーツ選 手から心身の健康増進できる優秀な指導者の育成を目的として行う。								
授業棚	既要	①プールサイドでのドライランドトレーニング (動きづくり)を行ってから、入水し実践を②知識・理論に関しては、グループワークを含んだ座学を行う。								
		授業内容				授業内容				
	1	オリエンテーション1			19	技術トレーニングのねらい				
	2 オリエンテーション2				20	技術トレーニングのねらい				
	3	オリエンテーション3				技術トレーニングのねらい				
	4	トレーニング理論			22	技術トレーニングの課題				
	5	トレーニング理論			23	技術トレーニングの課題				
	6	トレーニング理論			24	技術トレーニングの課題				
	7	水泳の体力トレーニング法			25	技術トレーニン	グの課題			
授	8	水泳の体力トレーニング法			26	技術トレーニン	グの実践			
業計	9	水泳の体力トレーニング法			27	技術トレーニン	グの実践			
画 表	10	水泳の体力トレーニング法			28	技術トレーニン	グの実践			
	11	水泳の体力トレーニング法				技術トレーニン	グの実践			
	12	水泳のメンタルトレーニング			30	水泳競技基礎	・ルール			
	13	水泳のメンタルトレーニング			31	水泳競技基礎・ルール				
	14	水泳のメンタルトレーニング			32	後期実技試験 対策				
	15	水泳のメンタルトレー	ニング		33	後期実技試験 100m個人メドレー				
	16	テスト 対策			34	確認テスト・まとめ1				
	17	泳力テスト			35	確認テスト・まと	·め2			
	18	テストの振り返り			36	確認テスト・まと	;b3			
		テスト		30	学	習FB方法	前期・後期 成績表			
成績害	削合	学習態度•出席	率	30						
		レポート		100%	万	戈績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80 ~89 B70~79点 C60~69点 D5			
D/D/A/6	つまし合	合計 D/細顆級漁刑学羽	>>00% p// 中科中时	100%	20%	Λ // → / / / h/n ≠ hr	9点以下は不合格 型学習≫20% G≪海			
講師コフィー	プロ							でいる講師が担当してい		

指導者として必要な知識を 肉の名称を覚えるとともに、 く。また、自分で正しく学び の基礎 授業内容	選択 注得る。	当まで	があるの特徴		36時間						
開講期 必・選 指導者として必要な知識を 肉の名称を覚えるとともに、 く。また、自分で正しく学び の基礎 授業内容	選択 ご得る。 、関節の動	めきや	筋肉の特徴	授業時間数	36時間						
必・選 指導者として必要な知識を 肉の名称を覚えるとともに、 く。また、自分で正しく学び の基礎 授業内容	子得る。	めきや	筋肉の特徴		36時間						
指導者として必要な知識を 肉の名称を覚えるとともに、 く。また、自分で正しく学び の基礎 授業内容	子得る。	めきや	筋肉の特徴								
肉の名称を覚えるとともに、 く。また、自分で正しく学び の基礎 授業内容	、関節の重	めきや	筋肉の特徴								
く。また、自分で正しく学び の基礎 授業内容	、関節の動 続けること	かきや	筋肉の特徴								
授業内容			骨や筋肉の名称を覚えるとともに、関節の動きや筋肉の特徴を知ることで、運動や健康の指導の基礎を築く。また、自分で正しく学び続けることができる基礎を築く。								
	解剖学の基礎										
学の導入	授業内容			授業内容							
機能解剖学の導入			脳・神経系の導入								
骨・関節の種類と動き			神経組織								
骨格の名称①/頭蓋骨			神経筋接合部								
骨の名称②/脊柱			シナプスと神経伝達物質								
骨の名称③/腕・脚・手・足など			交感神経と副交	交感神経と副交感神経							
筋肉について導入			脳神経系	脳神経系							
筋組織・筋肉の形状と特徴			大脳・間脳								
骨格筋の微細構造			脳幹・小脳・脊管	趙							
骨格筋の名称①/前面			髄膜								
骨格筋の名称②/前面・後面			上行伝導路								
骨格筋の名称③/後面			下行伝導路								
骨格筋の名称④/肩のローテーターカフ			脊髄反射								
小さな骨・骨格筋の名称			脊髄神経系支配領域について								
己始停止		32	伸張性反射について								
骨格筋の収縮と関節の動き			復習								
		34	復習・まとめ								
め		35	確認テスト								
`		36	前期・後期の総	合まとめ							
	70%	学	翌FB卡注	前期,後期 战績主							
N → N · · · · · · · · · · · · · · · · ·			ELD/MZ		KE 13						
	1000/	成績評価		出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C							
度•出席率	ļI	or come promotified the									
	度•出席率	70% 度·出席率 30%	カ 35 36 70% 度・出席率 30% プロロップ	カ 35 確認テスト 36 前期・後期の総 70% 学習FB方法 30% 成績評価 70% 大機評価 70% A≪主体的参加型学習を表現でする。 A≪主体的参加型学習を表現である。 A≪主体的参加型学習を表現である。 A≪主体の参加型学習を表現である。 A≪主体の参加型学習を表現できません。 A≪主体の参加型学習を表現である。 A≪主体の参加型学習を表現できません。 A≪主体の参加型学習を表現できません。 A≪主体の参加型学習を表現できません。 A≪主体の参加型学習を表現できません。 A≪主体の参加型学習を表現できません。 A≪主体の参加型学習を表現できません。 A≪主体の参加を表現できません。 A≪主体の表現できません。 A≪主体の表現できません。 A≪主体の表現できません。 A≪主体の参加を表現できません。 A≪主体の参加を表現できません。 A≪主体の参加を表現できません。 A≪主体の参加を表現できません。 A≪主体の参加を表現できません。 A≪主体の表現できません。 A≪主体の表現でも、A≪主体の表現でも、A≪主体の表現でも、A≪主体の表現でも、A≪主体の表現でも、A≪主体の表現でも、A≪生体の表現を、A≪生体のも、A≪生体の表現でも、A≪生体の表現でも、A≪生体の表現を、A≪生体のも、A≪生体の表現でも、A≪生体のも、A≪生体のも	35 確認テスト 36 前期・後期の総合まとめ 70% 学習FB方法 前期・後期 成績表 度・出席率 30% 出席率80%以上 S90~100点 A80~8						